

<神戸・南京をむすぶ会・講演会>

「長谷川テルの足跡を訪ねて」

講師：毎日新聞大阪本社社会部専門記者 鵜塚健さん

長谷川テルをご存じですか？

神戸・南京をむすぶ会では、日中戦争中に中国本土から反戦を呼びかけた日本人女性・長谷川テルについて学ぶ講演会を開催します。講師の鵜塚健さんは、今年1月、毎日新聞朝刊で2ページにわたり、テルに関する記事を書き、10月にはテルにゆかりのある中国・重慶や旧滿州を訪ねています。

むすぶ会は、2002年、長谷川テルの活動の舞台であった重慶を訪ねています。とても思い出深い旅でした。

鵜塚さんより、長谷川テルのこと、現地取材のことなどを学びます。ふるってご参加ください。(以下、鵜塚さんの新聞記事より)



1938年から41年にかけ、中国の戦場で、若い日本人女性の声が繰り返し響き渡った。37年に始まった日中戦争を「軍事ファシストが自分たちの利益のために起こした侵略戦争」と喝破し、ラジオ放送で日本兵に戦闘停止を呼びかけた。

「反戦放送」の声の主は、当時20代の長谷川テル(12~47年)。日本の都新聞(現・東京新聞)は38年11月、テルの身元を割り出し、「嬌声(きょうせい) 売国奴の正体はこれ」「怪放送、祖国へ毒づく」と伝えた。当時、テルは中国国民党に協力し、武漢、重慶から放送を続けていた。記事では、テルの父親が取材に応じ「(事実ならば私は)立派に自決する」と語っている。

テルは37年、こんな文章を発表している。「お望みならば、私を売国奴と呼んでくださいって結構です。決して恐れません。他国を侵略するばかりか、罪のない難民の上にこの世の生き地獄を平然と作り出している人たちと同じ国民に属していることの方を、私はより大きい恥としています」

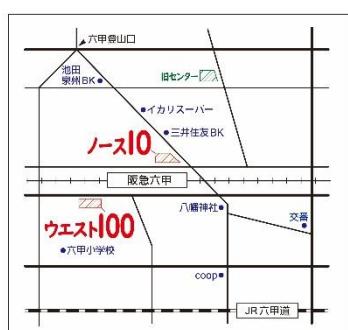
日時：2026年1月28日（水）午後6時半

会場：神戸学生青年センター西100 2階ホール

阪急六甲駅下車、線路南を西へ100メートル

TEL 078-891-3018 FAX 078-891-3019

参加費：1000円 ※当日会場でお支払いください。



主催：神戸・南京をむすぶ会

代表・宮内陽子、副代表・門永秀次、林伯耀、事務局長・飛田雄一
〒657-0051 神戸市灘区八幡町4-9-22 神戸学生青年センター内
TEL 078-891-3018 FAX 078-891-3019 e-mail hida@ksyc.jp